

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：大場勝雄 幹事：桜井健太郎

情報委員長：米沢修一

1982・1月7日

第207号

新年のごあいさつ

会長 大場 勝雄



去年の豪雪とうってかわった雪のない新年を迎え、皆様、ますますの御健勝をお喜び申し上げます。

過ぎた半年、その間山中町での地区年次大会、クラブ創立8周年記念例会、ガバナー公式訪問、京都洛北クラブ友好訪問等々、そしてクラブ年次大会を無事終って、漸く折返し点を経過致しました。皆様の御協力を厚く御礼申し上げます。

あと半年、クラブ創立の初心を忘れず、奉仕と友愛の精神を高揚し、RI会長スタンレI.E. マッキヤフリー氏の提言「ロータリーを通じて世界理解と平和を」実現の為に、誠の奉仕を皆様と共に捧げたく存じおります。

特にクラブ地域の香り高い芸術、文化の伝統を生かし、将来への靱帯としての企画（作品展、芸術、文化関係職業分類による会員の増強）等を実行に移したく話し合っております。此の種の実現は即効的稔りを得るものでなく、派手よりも地味なものであり、地道な長い積み重ねこそ必要と考えます。

皆様の御協力、御奉仕を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。



戌年生れと犬

越野 民男



大正11年6月6日生。生れた時半年経験した戌年が5回もやって来た。還暦60才になると子供が赤いチャンチャンコを送ってくれると云う事である。若かった頃あんな年寄と見て居た。その年令が遂に自分にもやって来たのだ。正月ももう60回である。皆な互いに特に新たまった挨拶を交して居るが経験が邪魔するのだろうか、そんなにお目出度くも有難くもない——これが今年の正月の印象だった。勿論誰れも例の赤い晴着も送ってくれなかったし、こちらも着る気持は微塵もなかった。

さて5回体験した戌年——犬について色々エピソードを経験して居るが、考えて見ると馬鹿げた様な犬との出会いであり、別れでもあった。長女が7才、長男が5才の頃、子供に駄々をこねられ、自分の干支でもある犬を飼う気になった。

最初にお目見えしたのがスピッツの雌犬でメリーと名付けた。案外子供からも親からも又、働いて居る多くの人達からも可愛がられて1年もたっただろうか。ある日この犬、娘になったのである。その証拠の血痕を部屋から部屋へと散らして歩いた。子供は病気だと騒ぐ。拭いて廻るのも困ったが、やがて妊娠でもして得体の知れぬ母親にでもなったら大変だと思い遂に大学病院へ提供したが、この犬、実験動物にされる事なくあるお医者さんに引きとられたとの事であった。

2番目のコリー犬には失敗が多い。そもそも来た動機から間違っている。或る患者さんに犬を依頼して数日過ぎた秋の日曜日、大屋さんの来宅を受けた。50万円程で立派な種犬が居り、交引代で採算が取れると云う話に惑わされ手付金、約10万円程渡した。其の時の彼の名刺に警察犬飼育と書いてあったのと自動車のマークが警察のそれと僅かに剣が少いだけで、殆んど似て居た事で信頼して了った。彼が去って1時間も経たない内に騙された事を知ったが後の祭りである。代償として小さな牡のコリー犬をもらった。当時は名犬ラッシーがテレビで好評であったが、子供はロリーと名付けて可愛がった。いくらかの手数料と名のつくものを払って優等賞を得たが一時は確かに利口だと思った事もあった。所がある時、我が薬品倉庫が2回にわたって泥棒に襲れたが、その時何の役にも立たなかった。どうした事かロリーはその都度別の土蔵の中に居た。犬病院へ入院させた事もある。確か当時の人間の入院費は1,000円、犬様は3,000円だった筈である。皮膚病にか、った時栄養補給としてチーズがよいと聞き毎日余る程に食べさせた事もあったが結局、田舎の知人に引き渡した。

洋犬にこりて第3番目からは芝犬であった。火災にあった友人から引き取ったのが始めてであったが、これは災の為気が狂って居た事を程なく知った。

新しい芝犬を買い求め、ユキと名付けて可愛がったが、1年目位で不幸にも病院建築に出合い、その騒々しい鉄筋コンクリートの音に悩まされノイローゼになって手放した。

第5番目に入籍したのが同じ芝犬の「鉄」であった。この犬の血統書は今も保存してあるが、祖父は文化賞受賞者、父は天皇賞、母は農林大臣賞の持ち主であった。特賞を得る為に腹の中に隠れていた片一方の辜丸を手術した事も覚えて居る。方々から種犬にと頼まれたが結局この犬は童貞で終わったと思う。夕方放しても必ず朝は犬小屋で待って居た。散歩に手綱を握って居る時、出くわしたすべての犬——それがブルドックであろうとセッタであろうと——この小犬に尻尾まいて逃げて行った。

この犬が居なくなったのは自分の深酒酔いが原因であった。午前様帰りの主人を見て狂った様に吠えた。或いはそう聞えたのかも知れない。日頃食事も与えた事のない者に愛着が薄い事を忘れて居た。「御主人様に吠える奴が居るか」ゴルフのバットで鞭をとばして、犬小屋の戸を開けた。3日程して一度家の前へ顔を見せたそうだが、それから二度と姿を現さなかった。家族の幾度に渡る搜索もラジオを通じての呼びかけも無駄であった。愛情と叱責は平行すべきであり、愛の鞭と云う言葉を深く教え込まれた。それ以後成年生れの自分の犬の飼育もなくなった。

今年の抱負

浅野 弘明



年男として一言ご挨拶申し上げます。

誕生日は1月25日、天神様の日に生れ、この25日で48才となります。先程は私の誕生祝、又入会以来4年間皆出席の表彰を賜りほんとうに有難う御座居ました。体に欠陥のある私、一年一年の積み重ねは、本当に大切な日々であり、4年間皆出席出来たのも、健康であった事と心から喜んで居ります。

この4年間、ロータリアンとして、又昨年はプログラマーとして大役を無事勤めさせて頂きましたのも、皆様の暖かい友情のおかげと心から御礼申し上げます。

今年はロータリアンとして5年目を迎えるにあたり、ロータリーの綱領、四つのテスト、柴田さんのロータリーの信条に生き、奉仕の理想を更に追求し、研鑽していく所存で御座居ます。何卒皆様方のより一層の御指導をお願いいたします。

成年の年男といたしまして、今年には私にとり大変重要な年でございます。ロータリアンとして5年目、結婚いたしまして20年目、歯科器材販売の事業を起こして以来25年と大きな節目を迎える年であると共に、熟年の年でもございます。

人生の節目にあたる今年には仕事上初心にたちかえり、現在の足元をみつめなおし、着実に基礎がためを行う年だと思っております。無理・無駄・ムラをなくし総点検し反省をおこたる事なく、この激動の時代を乗り切っていきたいものと思っております。

今年にはゼロサム時代とか、各業界におきましても大変きびしい年であり、企業格差がますます出来るのではないかと思います。この時流に押し流される事なく、私の経営理念としております人々の健康をお守りするという使命をになう歯科医療産業の一員として、歯科医さんを通し社会の為に奉仕し、お得意の頼りになるよう努めたく思っております。その事が社員、又社員の家族の幸せにつながると思っております。

人生の大きな節目を迎える今年を契機に30年目又21世紀へと着実に飛躍していきたく思っております。今後共、皆様方の暖かい友情と御指導をお願い致しますと共に、皆様方のご健康と益々の御発展をお祈りいたしまして私の年男の挨拶とさせていただきます。

